

梨ができるまで

—もっと詳しく知りたい人向け—

知ると奥が深い梨の栽培。

今回は梨の栽培における代表的な5つの作業について、

梨農家を目指して活動している2名の地域おこし協力隊員にお話を伺いました。

剪定・誘引（12月～3月頃）

- 剪定とは 古くなった枝や要らない枝を切除する作業です。芽には葉芽（ようが）と花芽（かが）があり、果実が実るのは花芽だけのため、花芽がたくさんある枝を残すようにします。



葉芽（ようが）



花芽（かが）

- 誘引とは 剪定で整理した枝を棚に結び付ける作業です。枝を棚に固定すると風で揺れにくくなり、落果や傷を防ぎ、大きくて高品質な果実を作ることができます。枝を棚付けする時には、枝に切れ目を入れてねじって倒す捻枝（ねんし）という方法で倒します。



棚付け後

■剪定・誘引のポイント

俵谷隊員

剪定の際は、枝の上や元から出ている枝を使わないことや、切り口の切る角度や位置を工夫して出したいところから枝を出させること、枝を残しすぎると病気の原因になるので残しすぎないことなどに気を付けます。

誘引の際は、枝を棚につける位置でつけられる実の数も変わってくるので、一番多く実がつけられる位置を考えることや、枝は引っ張る角度と高さによって伸び方や花芽の付く数が変わること、枝の先端は伸ばす方向を考えてなるべく隣の木とぶつからないようにすることなどに気を付けます。

武藤隊員

剪定するときはハサミやノコギリを丁寧に動かして切り口がきれいになるように気を付けます。きれいに切った方が、切り口がふさがりやすく病気の感染リスクを低減できます。誘引するときに、枝と枝の距離が近いと葉っぱが出たときに農薬がかかりづらくなってしまいますので、適度な間隔になるように注意して枝を配置します。

受粉（4月頃）

- 受粉とは めしべに梵天（ぼんてん）という専用の道具で花粉をつけることです。梨の木は同じ品種同士では花粉を付けても実がならない（受精しない）ので、異なる遺伝子を持つ品種の花粉を使います。補助としてミツバチにお手伝いしてもらうことがあります。



梨の花



花粉と梵天

■受粉のポイント

俵谷隊員

梵天をどの花にもつけるのではなく、1つの花そうに1か所だけつけて摘果の手間を減らしたり花粉の無駄使いを減らしています。

※花そう … 梨の花芽1つに8~10個の花が咲き、この1群を花そうと呼びます。

武藤隊員

梵天で花粉をつけるときに、強くたたきすぎるとめしべが傷んでしまうので適度な力加減で行うように注意します。めしべは5本あり、すべてのめしべにきちんと花粉がつくことで種子がそろい、きれいな形の美味しい果実ができます。咲いている花全部に受粉すると実が多すぎて摘果が大変になってしまうので、花の状態を見極めて美味しい実ができそうな花を選んで受粉しています。



春の梨畑の様子

摘果（5月～7月頃）

■摘果とは 幼果を間引く作業です。まず1次摘果で1つの花そうにつき1果になるように形が良くて大きいものを残します。その後肥大が進むと、変形果や小果が分かりやすくなるので2次摘果では1本の枝に5、6果になるように間引きます。さらに仕上げ摘果では罹病果や裂果を随時落として残りの果実に栄養を集中させます。



裂果（割れた実）



きれいな形の実

■摘果のポイント

俵谷隊員

1つの花そうには花のついている順番で1番花～6番花ぐらいあるのですが、そのうち3番花が一番良い実になると言われているので、そこを意識しています。また、棚線に実が当たると傷や汚れがついて秀品で売れなくなるので、実が大きくなった時を予測して棚線に当たらない場所にだけ実を残すよう気を付けています。

武藤隊員

片側から見たときはきれいな形に見えても、反対側から見ると変形していたり病斑があったりするのでいろいろな方向から見て果実を選ぶように気を付けています。軸の角度も重要で、上向きの軸は果実が肥大すると折れてしまうので横向きのを残します。スピードと丁寧さを両立するのが難しいです。



選果時の梨畑の様子

収穫（8月～10月頃）



収穫時の梨



収穫した梨

■収穫のポイント

俵谷隊員

品種によって1番良い色づきのタイミングが違うのでそれを把握して見極めることや、日の当たり具合で同じ実でも色が違って見えるのでじっくり、かつ素早く実の色を見極めてとること、ハサミで実を突いたり傷つけないようにすることなどに気を付けます。

武藤隊員

枝にぶつけて傷つけないように気を付けながら果実を持ち上げるようにして樹から収穫します。また、果皮色を見ながら梨を採るのですが、食べごろの果皮色を見極めるのが難しかったです。直射日光がまぶしいときや曇天で暗いときは果皮色が見えにくいので収穫する梨を選ぶのが大変でした。ハサミで軸を切るときには果肉まで切らないように気を付けました。収穫した梨を移動させるときは少しの衝撃でも傷みにつながるので丁寧に扱う必要があります。畑の梨を見て残り何キロ在庫があるか推測するのが難しかったです。

